

■ 小学校6学年 社会科 (10)

単元名・単元のねらい	主な学習内容	博物館資料	資料活用の視点
<p>(9)明治の新しい世の中</p> <p>・開国以後日本の近代化に尽くした人々の働きを中心に、明治政府の諸改革、文明開化、自由民権運動や国会開設などを調べ、欧米の文化を取り入れながら、日本が近代的な国家としてのしくみや形態を整えていったことをとらえる。</p>	<p>・変わったことを見つけよう</p> <p>・新しい政府をつくろう</p> <p>・ヨーロッパのように文明開化</p> <p>・早くヨーロッパに追いつこう</p> <p>・自由民権の運動が広がる</p> <p>・国会が開かれる</p>	<p>[F、御一新の時代]</p> <p>・浜通りの戊辰戦跡と戦死者</p> <p>・戊辰戦争時使用のもの</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・火縄銃</li> <li>・火薬入れ</li> <li>・陣羽織、軍服</li> <li>・日本刀</li> </ul> <p>・廃藩置県直後の行政区分</p> <p>・土着者名簿(明治4年)</p> <p>・町村制実施の行政区分</p> <p>・明治28年(1895)頃の原ノ町(南新田)</p> <p>・相馬の歴史(松本敬信著)</p> <p>・原ノ町駅開業当時の構内風景</p>	<p>・長く続いた武士の政権は、大政奉還・廃藩置県によって終わりを告げ、天皇を中心とした新政府がつくられたが、それを不満とする旧幕府軍と長州・薩摩を中心とする新政府との間に、慶応4年(1868)戊辰戦争が起こった。浜通りの戊辰戦争の経過をとらえさせる。</p> <p>・戊辰戦争で官軍と戦う時に着用した陣羽織と降伏後、官軍として仙台藩と戦った時に着用した軍服で、同一人物の物である。</p> <p>・明治2年(1869)の版籍奉還により、土地・人民は天皇に帰属することになり、明治4年(1871)の廃藩置県で、藩は完全に廃止されたことを理解させる。</p> <p>・中村藩では、城下の家中と呼ばれた武士を新しい生業につかせるために、帰農土着の方法を取った。</p> <p>・明治22年(1889)に町村制が施行、行方郡は1町15村となる。また、明治29年(1896)に、行方郡と宇多郡は合併し、相馬郡となったことをとらえさせる。</p> <p>・当時の原町の地図を見て、現在と比較しながら、役場、学校などの所在をとらえさせる。</p> <p>・明治10年(1877)自由民権を叫んで、相馬に「北辰社」という政治結社が結成されたことにふれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・岡田健長 <ul style="list-style-type: none"> <li>・明治初年より、河野広中らと自由民権を叫び、民選議院の設立を建白、北辰社社長、自由民権運動首脳者</li> </ul> </li> <li>・相馬の自由民権家 <ul style="list-style-type: none"> <li>・愛澤寧堅、苅宿仲衛、目黒重真</li> </ul> </li> </ul> <p>・常磐線ノ開通—明治31年(1898)</p> <p>・郵便事務取扱所—明治6年(1873)</p> <p>・電話交換所—明治43年(1910)</p>